

高速道路のミッシングリンク解消に向けて

近年、グローバルな国家・都市間競争が激化している。関西がこの競争を勝ち抜いていくには、イノベーション創出の拠点として、また、世界的観光地としてのポテンシャルを十分に発揮していくことが求められる。そのために不可欠なのが空港、港湾、高速道路といったインフラの整備である。なかでも、高速道路は各産業拠点、消費地、空港、港湾をつなぐ重要なインフラであるにもかかわらず「ミッシングリンク(断絶区間)」が存在しており、それゆえ不都合が生じている。今後も関経連は、高速道路のミッシングリンク解消に向け、一層取り組みを加速させていく。

総合的な物流ネットワーク形成の必要性

グローバル化が進展するなかで、関西の産業競争力を強化するためには、物流の効率化が重要である。具体的には、リードタイムの短縮によるトータルコストの削減、物流ルートの信頼性の確保などが必要で、これらを実施するには、陸・海・空が一体となった総合的な物流ネットワークの形成が不可欠である。

関西には、完全24時間運用が可能な国際拠点空港、関西国際空港

(関西空港)や、今年10月に大阪・神戸両港の埠頭会社が統合され利便性の向上が見込まれる国際コンテナ戦略港湾、阪神港がある。これらの物流拠点を内陸部の経済圏と有機的に連携させることで関西のポテンシャルを最大限発揮でき、さらなる経済発展が可能となる。

しかしながら、これらの物流拠点と経済圏をつなぐ重要な役割を担う高速道路網の中には、断絶していることで十分に機能しない区間、「ミッシングリンク」がある(図1)。効率的で信頼できる物流ネットワーク

の構築に向けて、一日も早い高速道路のミッシングリンクの解消が望まれている。

関西の高速道路整備の現状

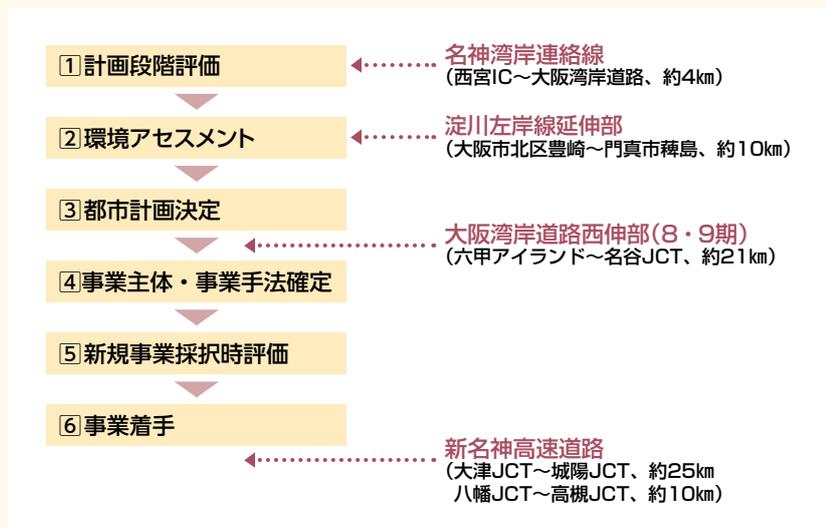
首都圏・中部圏の高速道路は、ほとんどの区間ですでに事業化済みである。一方、関西圏では事業化されていない区間も多く、すべてのミッシングリンクが解消されるめどがいまだに立っていないのが現状である。

そのうち、特に重要なのが大阪湾岸道路西伸部と淀川左岸線延伸部である。現在、関西以西との物流に使われている主なルート(深江IC—神戸都心—第二神明道路)では、神戸市内で最大20kmにも及ぶ渋滞が慢性的に発生しており、特に夕方の時間帯における渋滞損失額は日本一との試算も出ている(国土交通省調べ)。神戸市内の湾岸部分を通る大阪湾岸道路西伸部が完成すれば、交通の分散化により渋滞の大幅な緩和が見込まれる。加えて、阪神港へのアクセスも向上することから、関西の物流機能の強化に大きく寄与するものといえる。しかし、都市計画決定まで

〔図1〕 ミッシングリンクの概況



〈図2 関西圏の各ミッシングリンクの進捗〉



は進んだものの、いまだに事業化には至っていない。

一方、淀川左岸線延伸部は、政府の都市再生本部の都市再生プロジェクトに位置づけられた「大阪都市再生環状道路」の一部を構成する、大阪市内と第二京阪道路を結ぶ延長約10kmの道路である。完成すれば、関西空港や大阪ベイエリアが有機的に結ばれ、京都・滋賀方面との連携が強化される。また、大阪都心に流入する交通を適度に分散させることにより、渋滞の緩和

や、事故・災害時の迂回機能確保、排気ガスの抑制といった環境改善など、さまざまな効果が期待され、大阪・関西の経済活性化や競争力強化につながる。淀川左岸線延伸部については、現在、環境アセスメントが進められており、都市計画決定および事業化をめざして検討が進められている(図2)。

ミッシングリンク解消に向けた 関経連の取り組み

当会では、今年2月に発表した

「首都中枢機能のバックアップ体制構築と強靱な国土づくりに関する提言」の中で、ミッシングリンクの早期解消を求めた。ただし、関西の高速道路の整備を進めるためには、各地域のステークホルダーが一体となって、国に対して早期整備の必要性を主張していくことが重要である。そこで今年9月には、地元自治体等の後援を得て、「関西の総合ネットワーク形成の必要性と高速道路ミッシングリンクの解消」と題したシンポジウムを開催するなど(詳細は下記)、機運醸成活動にも取り組んでいる。

高速道路の整備は関西経済の浮沈のみならず、わが国経済の発展にかかわる重要事項であり、とりわけ、大阪湾岸道路西伸部と淀川左岸線延伸部については、一日も早い事業化・整備が求められる。今後は、地元自治体等との官民連携をさらに強化しつつ、適時適切に国へ要望・情報発信を行うなど、早期整備に向けた取り組みを推進していく。

(地域連携部 坂田拓朗)

ミッシングリンクに関するシンポジウムを開催

9月29日(月)、大商、神商、関西経済同友会とともに「関西の総合ネットワーク形成の必要性と高速道路ミッシングリンクの解消」と題したシンポジウムを開催した。

基調講演では、京都大学経営管理大学院の小林潔司教授が、グローバル競争におけるネットワークの重要性について講演した。その後、小林教授の進行のもと、近畿地方整備局の森昌文局長、新関西国際空港の安藤圭一社長(関経連国土・広域基盤委員会物流担当委員長)、日本政策投資銀行の福田健吉常務執行役員、日通・パナソニック ロジスティクスの藤井宏英社長をパネリストに迎え、「関西の総合ネットワーク形成をめざして」をテーマにパネルディスカッションを行った。関西での物流、空港、港湾の現状や関西経済の強み、高速道路網の課題について各パネリストから説明があり、ミッシングリンク解消に向けて官民連携の推進体制が必要であるとの指摘があった。

